

自然観察会報告
鳴く虫の観察会報告
佐々木彰央



観察する参加者



マツムシ



クチキコオロギ



クツワムシ

9月20日に静岡県立美術館周辺の道沿いで、秋を代表する「鳴く虫」の観察会を実施しました。当日の天候はくもりで、最高気温は23℃、最低気温は19℃でした。講師として杉本 武先生をお招きして午後6時から2時間ほど17名の参加者と共に鳴く虫を歩いて探し回りました。

観察会では当NPOの三宅 隆氏より挨拶があり、つづいて杉本先生から「鳴く虫」についての説明をしていただきました。杉本先生の話では、「鳴く虫」とは翅をこすりあわせることで音をだす昆虫のことで、国内には240種類ほどいるそうです。代表的なものは、コオロギやキリギリスで、コオロギの仲間には全国に約50種、キリギリスの仲間は約40種もあり、鳴く虫全体の38%も占めるそうです。このほかにも、興味深いお話をうかがいながら、美術館周辺の散策をはじめました。

散策を開始してすぐに「リーリーリー」と

美しい音色が聞こえてきました。種類はアオマツムシで体長は約20mm、鮮やかな緑色の体色が特徴だそうです。アオマツムシは本来日本にはいなかった種類と考えられており、1900年以降に日本に入ってきたそうです。音色は聞こえましたが、残念ながら姿を確認することはできませんでした。

次いでみつかったマツムシは、淡褐色で体長は約25mm、鳴き声は「ピッピリリッ」と高い音をだします。アオマツムシとは異なり、日本にもとから生息している種類です。

その後、クチキコオロギやミツカドコオロギ、クツワムシなど数多くの鳴く虫や、夜行性の昆虫がみつかりました。

今回の観察会でみつかったコオロギの仲間は9種類で、キリギリスの仲間は4種類でした。

講師をしていただいた杉本 武先生には心よりお礼を申し上げます。